

古典入門④ 『宇治拾遺物語』

次の『宇治拾遺物語』の一節を読んで、あとの問いに答えなさい。

これも今は昔、(1) みなかの児の比叡の山へ登りたりけるが、桜のめでたく咲きたりけるに、風のはげしく吹きけるを (a) 見て、この児さめざめと泣きけるを見て、僧の (2) やはら (b) 寄りて、などかうは泣かせたまふぞ。この花の散るを、惜しう覚えさせたまふか。桜ははかなきものにて、かく程なくうつろひさぶらふなり。されども、さのみぞさぶらふ、と、(c) なぐさめければ、桜の散らんは、あながちにいかがせん、苦しからず。わが父の作りたる麦の花散りて、実の入らざらん思ふがわびしきと言ひて、(d) さくりあげて、よよと泣きければ、うたてしやな。

*児 修行などのために寺に入った少年のこと。 *やはら そつと。 *かく程なく こうしてすぐに。 *さのみぞさぶらふ それだけのことですよ。 *あながちにいかがせん 必ずしもどうということではありません。 *うたてしやな なんとも情けないことだなあ。

一、(1) 〓 (2) を現代かなづかいになおしなさい。

(1) () () (2) () ()

二、(a) 〓 (d) の主語にあたる人物を「児」「僧」から選び、それぞれ書きなさい。

(a) () () (b) () () (c) () () (d) () ()

答え

- 一。(1) いなか (2) やわら
二、(a) 兎 (b) 僧 (c) 僧 (d) 兎

解説

主語の見つけ方

- ①助詞「が」「は」を補いながら読む。
②主語を示す助詞「の」に注意する。この「の」は「が」に置き換えることができる。